

令和7年度 第3回 石川県能登地域公共交通協議会

次 第

日時： 令和8年3月26日(木) 13:30～

場所： のとふれあい文化センター 2階 学習室

1 開 会

2 会長挨拶

3 議事等

- (1) 石川県能登地域公共交通計画等について 資料1
(議案1：石川県能登地域公共交通計画(案))
- (2) 「交通空白」解消パイロット・プロジェクトについて 資料2
- (3) 令和8年度協議会事業計画・予算(案)について 資料3
(議案2：令和8年度 事業計画(案))
(議案3：令和8年度 歳入歳出一般会計予算(案))
- (4) 令和7年度地域公共交通再構築調査事業の評価について(のと鉄道) 資料4
- (5) のと鉄道令和8年度鉄道事業再構築事業について 資料5
- (6) 「地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統確保維持費国庫補助金)」
にかかると石川県能登地域公共交通計画別紙の変更(案)について 資料6
(議案4：石川県能登地域公共交通計画別紙(変更案))

4 意見交換

5 閉 会

令和7年度 第3回 石川県能登地域公共交通協議会 出席者一覧

所属	氏名	備考
公立小松大学 サステナブルシステム科学研究科教授	高山 純一	会長
石川県企画振興部長	矢後 雅司	
七尾市副市長	星野 弘幸	
輪島市副市長	中山 由紀夫	(代理) 企画振興部 部長 山本 利治
珠洲市副市長	金田 直之	
羽咋市副市長	川口 哲治	(代理) 企画財政課 課長 山岸 巖之
志賀町副町長	山森 博司	
宝達志水町参事兼総務課長	金田 成人	
中能登町副町長	池田 正明	(代理) 企画情報課 課長補佐 三野 一隆
穴水町副町長	宮崎 高裕	
能登町副町長	野口 隆	
北陸信越運輸局 交通政策部交通企画課長	大村 進太郎	
北陸信越運輸局石川運輸支局長	開田 慎	
北陸地方整備局金沢河川国道事務所長	五十川 泰史	(代理) 副所長 飴谷 卓也

所属	氏名	備考
北陸地方整備局能登復興事務所長	杉本 敦	(代理) 計画課長 田中 義太郎
石川県土木部道路整備課長	松尾 和弘	
石川県警察本部交通部首席参事官	遠藤 英之	(代理) 交通規制課 参事官兼交通規制課長 舟津 敬雄
西日本旅客鉄道株式会社 金沢支社地域共生室長	鹿野 剛史	(代理) 地域共生室 次長 塚本 大輔
のと鉄道株式会社代表取締役社長	中田 哲也	
北陸鉄道株式会社取締役自動車部長	高橋 航	
能登島交通株式会社代表取締役社長	青山 邦一	(代理) 総務部長 星野 泰明
一般社団法人石川県タクシー協会専務理事	宮崎 芳信	欠席
石川県交通運輸産業労働組合協議会	大脇 貴之	欠席
公益財団法人石川県老人クラブ連合会	干場 昌明	(代理) 常務理事兼事務局長 山崎 一郎
石川県高等学校PTA連合会	新谷 智子	
石川県高等学校PTA連合会	西谷 愛	
一般社団法人能登半島広域観光協会	刀祢 秀一	欠席
輪島商工会議所女性会	澤田 珠代	

令和7年度 第3回 石川県能登地域公共交通協議会 座席図

日時：令和8年3月26日(木)13：30～

会場：のとふれあい文化センター 2階 学習室

公立小松大学
高山 純一 会長



随 行 者 席	七尾市 星野 弘幸	○				○	石川県老人クラブ 連合会 山崎 一郎	随 行 者 席
	輪島市 山本 利治	○				○	石川県高等学校 PTA連合会 新谷 智子	
	珠洲市 金田 直之	○				○	石川県高等学校 PTA連合会 西谷 愛	
	羽咋市 山岸 厳之	○				○	輪島商工会議所 女性会 澤田 珠代	
	志賀町 山森 博司	○				○	西日本旅客鉄道 塚本 大輔	
	宝達志水町 金田 成人	○				○	のと鉄道 中田 哲也	
	中能登町 三野 一隆	○				○	北陸鉄道 高橋 航	
	穴水町 宮崎 高裕	○				○	能登島交通 星野 泰明	
	能登町 野口 隆	○				○	北陸信越運輸局 大村進太郎	
	金沢河川国道事務所 飴谷 卓也	○				○	石川運輸支局 開田 慎	
	能登復興事務所 田中義太郎	○				○	県警察本部 舟津 敬雄	
	県道路整備課 松尾 和弘	○						



県企画振興部長
矢後 雅司

県交通総合対策監
三林 直慶

※敬称略

事	務	局
○	○	○

記	者	席
---	---	---

石川県能登地域公共交通計画について

令和 8 年 3 月 2 6 日

令和 7 年度 第 3 回 石川県能登地域公共交通協議会

目次

1. 石川県能登地域公共交通計画（第二次計画）に対する
第2回協議会意見の反映等について | P01
2. パブリックコメントの概要及びご意見に対する考え方について | P09
3. 石川県能登地域公共交通計画（案）について | P11

1. 石川県能登地域公共交通計画（第二次計画）に対する
第2回協議会意見の反映等について

1. 第2回協議会意見の反映等について (1/7)

第V章 将来像の実現に向けた施策・取組

意見の概要	意見に対する考え方 計画への反映	該当 ページ
<p>(自動運転について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動運転については高いドライバー不足のハードルを乗り越えるために位置付けすべきだと思う。 無人バスのような新しい技術の導入が担い手の確保には必要になってくると思うので、計画に入れていただければと思う。 ドライバー不足ということになれば自動運転も効果的な手法だと思うが、来年すぐに導入とはならず、勉強が必要であり、議論をしていくことが必要。 自動運転については交差点の問題やそんなに長い距離が走れないことなど問題もあるが、ワーキンググループの中でも話をして早々に動いていくことが必要ではないのか。 自動運転については今すぐというのはもちろんできないが、国の方でも実証実験をやっており、検討ぐらいはしないとけないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転について、ご指摘を踏まえ、<u>一部修正しました。</u> <p><該当箇所> 基本方針2>施策2>取組③ A I オンデマンド交通など新たな交通モードの導入支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 各市町では、地域公共交通の状況を踏まえ、定時定路線バス等を補完するA I オンデマンド交通や公共ライドシェアなど新たな交通モードの<u>導入</u>や制度の導入・活用<u>支援</u>に取り組みます。 国・県等が連携し、<u>新たな交通モードの導入に向けた研究会を立ち上げ</u>、奥能登2市2町共同でのA I オンデマンド交通で導入における実績やノウハウを活かし、新たな交通モードの<u>導入</u>や制度の導入・活用を支援します。 <u>自動運転の技術進展や実装の動向を把握・分析するため先行事例の調査等を行います。</u> 	66

1. 第2回協議会意見の反映等について (2/7)

第V章 将来像の実現に向けた施策・取組

意見の概要	意見に対する考え方 計画への反映	該当 ページ
<p>(ライドシェアについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライドシェアについて各自治体がそれぞれシステムを作っていくというのは不効率で良いプラットフォームを能登で共通化するなど、イニシアチブが必要。 ・加賀市や小松市が公共ライドシェアを一生懸命やっており、これを能登にも持ち込みたい。またタクシー事業者を中心に日本版ライドシェアということもやっており、能登では七尾市で今やっているところではあるが、タクシー会社を中心に市町と協力をしていきたいと思っているところである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライドシェアについて、ご指摘を踏まえ、<u>一部修正しました。</u> <p><該当箇所> 基本方針2>施策2>取組③ A I オンデマンド交通など新たな交通モードの導入支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町では、地域公共交通の状況を踏まえ、定時定路線バス等を補完するA I オンデマンド交通や公共ライドシェアなど新たな交通モードの導入や制度の導入・活用支援に取り組みます。 ・国・県等が連携し、<u>新たな交通モードの導入に向けた研究会を立ち上げ、奥能登2市2町共同でのA I オンデマンド交通で導入における実績やノウハウを活かし、新たな交通モードの導入や制度の導入・活用を支援します。</u> ・<u>自動運転の技術進展や実装の動向を把握・分析するため先行事例の調査等を行います。</u> 	66

1. 第2回協議会意見の反映等について (3/7)

第V章 将来像の実現に向けた施策・取組

意見の概要	意見に対する考え方 計画への反映	該当 ページ
<p>(鉄道について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P53の施策2の輸送資源の総動員による面的交通ネットワークの実現、取組①の件です。鉄道事業者については広域交通として第一次計画で役割を担っていると思うが、例えば羽咋市では小さな市にJRの駅が3つあり、市内の移動手段としても鉄道が入ってきて当たり前な感じがするので、鉄道事業者のことを入れていただければと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当箇所について、ご指摘を踏まえ、<u>一部修正しました。</u> <p><該当箇所> 基本方針1>施策2>取組① 行政・交通事業者の連携による持続可能で最適な地域公共交通サービスの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能で最適な地域公共交通の実現のため、適宜、能登地域公共交通協議会やワーキンググループ等を開催し、路線バス・<u>鉄道</u>・タクシー・コミュニティバス・AIオンデマンド交通など輸送手段を総動員した能登の公共交通のあり方について継続して協議を行います。 	65
<p>(継続的な協議について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の統合、学校の再編など色々ある。道路も通れないところが通れるようになる。そういう意味ではこの2年間で調査等をしたことが3年後、5年後には状況は変わる。この協議会は今年度がスタートだと思うので、議論できる場を必ず継続してほしい。 ・ AIオンデマンド交通について市町を跨いだ利用、観光の周遊という面も取り組みをなされればと考えているが、現状は4市町とも料金体系やサービスに相違がある。そこを一元化に統一したような連携が図ればというところではあるが、それぞれの事情もあり難しいと感じている。まずは小さな目標として市町内のAIオンデマンド交通をどのようにより利便性を図っていくかというところに主眼を置きたい。 ・ 現状走る路線バスでの運行はどこまでが必要なのかということを実際に考えていけないといけない時代が来ていると思う。交通弱者の方の意見も取り入れながら、バス待ち環境はどうなのか、このダイヤが必要でこのダイヤはいらぬといった話をできるように、WGを設置し、今後の能登エリアの交通網をしっかりと協議させていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な協議については、以下の通り、本計画の施策に位置付けており、引き続き協議を実施していきます。 <p><該当箇所> 基本方針1>施策2>取組① 行政・交通事業者の連携による持続可能で最適な地域公共交通サービスの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>持続可能で最適な地域公共交通の実現のため、適宜、能登地域公共交通協議会やワーキンググループ等を開催し、路線バス・鉄道・タクシー・コミュニティバス・AIオンデマンド交通など輸送手段を総動員した能登の公共交通のあり方について継続して協議を行います。</u> 	65

1. 第2回協議会意見の反映等について (4/7)

第V章 将来像の実現に向けた施策・取組

意見の概要	意見に対する考え方 計画への反映	該当 ページ
<p>(広域運営への県の主体的な参加について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P55の施策4の取組②に広域連携による公共交通の効果的な運営の記載があるが、奥能登2市2町の件については具体的な中身があるが、能登地域の自治体は広域連携に期待しており、できれば県の方で少しイニシアチブを取りながら後押しをしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当箇所について、ご指摘を踏まえ、<u>一部修正しました。</u> <p><該当箇所> 基本方針1>施策4>取組② 広域連携による公共交通の効果的な運営体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 能登地域全体における効率的かつ効果的な公共交通ネットワークの構築を図るべく、各市町や交通事業者等が広域で連携した公共交通運営体制の確立を目指します。 ・ 共同での路線計画の立案や、AIオンデマンド交通などサービスの導入・管理業務、利用促進や情報発信等の広報活動、運転手の確保、予算・収支管理などを広域で一元化して行うことを検討し、効率的・効果的な運営体制の構築を図ります。 <p><u>県：「○(関連する主体)」→「●(主な主体)」</u></p>	67
<p>(復興まちづくりへの県の主体的な参加について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P59の基本方針3の能登の創造的復興と活性化に資する公共交通の実現のなかで、取組①復興公営住宅や奥能登公立4病院の再編・統合など復興まちづくりに合わせた取り組みの推進ということで当然市町が主な主体というのはもちろんだが、健康福祉部等々とお話し、2市2町と県で一部事務組合を作って4病院を再編するという流れのなかで、県も主な主体でやっていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当箇所について、ご指摘を踏まえ、<u>一部修正しました。</u> <p><該当箇所> 基本方針3>施策4>取組① 復興公営住宅や奥能登公立4病院の再編・統合など復興まちづくりに合わせた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復興公営住宅や奥能登公立4病院の再編・統合など復興まちづくりに合わせ、商業施設や病院と住まいを結ぶ公共交通サービスの検討・導入に向けた取組を推進します。 <p><u>県：「○(関連する主体)」→「●(主な主体)」</u></p>	71

1. 第2回協議会意見の反映等について (5/7)

第V章 将来像の実現に向けた施策・取組

意見の概要	意見に対する考え方 計画への反映	該当 ページ
<p>(A I オンデマンド交通について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や医療、福祉というのは今後も必要とされるものであり、例えばケアマネージャーや相談員が代わりに予約していただけるシステムを導入していくことでもっと素晴らしく使いやすいものになると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> A I オンデマンド交通については、地域住民に向けた利用方法等の説明会を実施していくこととしており、以下の通り、本計画の施策に位置付けております。またアプリ予約や電話での予約は代理で予約することが可能となる予定のため、その旨も説明会を通じて周知していきます。 <p><該当箇所> 基本方針1>施策2>取組②</p> <ul style="list-style-type: none"> 国のモデル事業を活用し、奥能登2市2町において、予約に応じてA Iが最適なルートを決し乗合でのタクシー等を運行するA I オンデマンド交通について、共通のシステムを構築し、令和8年秋頃からの実証運行を目指します。 <u>地域住民に向けてA I オンデマンド交通の利用方法等の説明会を開催し、積極的な利用を促進します。</u> 	66
<p>(利用促進について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば近隣のスーパーやデパートと提携し、このデマンドに乗ればポイントが付くとか、駅にパンフレットを置かせてもらったり、介護施設の方にこういう使い方があるので使ってくださいという説明会を実施したりなど、どうすれば使ってもらえるかということを構築して持続可能になるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 該当箇所について、ご指摘を踏まえ、<u>一部修正しました。</u> <p><該当箇所> 基本方針3>施策2>取組①</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな需要の創出に向けて、地域のイベントや沿線の観光施設・商業施設・<u>コミュニティ施設</u>と連携し、<u>た利用特典の充実、その他利用促進キャンペーンの実施を検討します。公共交通の利用促進に向けた取り組みを実施します。</u> 地域の復興イベント等の開催に合わせた臨時バスなどを運行することで地域住民や来訪者の公共交通の利用促進に繋がります。 	71

1. 第2回協議会意見の反映等について (6/7)

第V章 将来像の実現に向けた施策・取組

意見の概要	意見に対する考え方 計画への反映	該当 ページ
<p>(運転手への支援について)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 県外からの移住も含めて、運転手に対して施策というものを考えていただきたい。また路線バスの部分もやはり運転手がいなくなると幹の部分も崩壊していくことを懸念している。10年先を見据えて考えていただければと思う。	<ul style="list-style-type: none">・ 該当箇所について、ご指摘を踏まえ、<u>一部修正しました。</u> <p><該当箇所> 基本方針1 > 施策3 > 取組①</p> <ul style="list-style-type: none">・ 担い手の確保に向け、<u>関係機関が労働局やILAC等とも連携し、採用情報の発信力強化や業界全体のイメージアップに向けた広報活動・就業支援等</u>に取り組みます。・ 行政においては、事業者や業界が取り組み担い手確保に向けた広報活動や第二種運転免許取得費負担などの取り組みを支援します。	66

1. 第2回協議会意見の反映等について (7/7)

第VI章 計画の達成状況の評価

意見の概要	意見に対する考え方 計画への反映	該当 ページ
<p>(公的財政負担額について)</p> <ul style="list-style-type: none">・ P 6 1 の評価指標と目標の考え方について、少し疑問に思うものが公的財政負担額という項目。昨年取りまとめた第一次計画にもこの項目があり、羽咋市の公共交通計画(R 3年度策定)にもこのような負担額を抑えようという項目が指標としてある。ただ、この震災後に計画を作る中で、この交通政策については地方へ行けば行くほど福祉政策になりつつあるという感じがしており、この財政負担を抑えるということが本当に優先して目標として上げなければならないのかということに少し疑問に思っている。まずはそれよりもしっかりと住民の足を確保するサービスを重視する。こちらの方に本来はシフトしていかなければならない政策ではないのかということに少し感じているので、この負担額についても記載方法を変える方がいいと思う。	<ul style="list-style-type: none">・ 該当箇所について、ご指摘を踏まえ、<u>一部修正しました。</u> <p><該当箇所> 公的財政負担額> 目標値の考え方</p> <ul style="list-style-type: none">・ 人口減少が見込まれる中でも、各取組により利用者増等を図り、公的財政負担額の現状水準維持を目指します。 <u>※住民へのサービス向上により、負担額が増加することを否定するものではありません。</u>	75

2. パブリックコメントの概要及び ご意見に対する考え方について

2. パブリックコメントの概要及びご意見に対する考え方について

パブリックコメントの概要

意見募集期間	令和8年1月19日（月）～令和8年2月20日（金）
公表資料	石川県能登地域公共交通計画（第二次計画）（案）の概要 石川県能登地域公共交通計画（第二次計画）（案）
資料の閲覧方法	石川県ホームページ（知事室戦略広報課：パブリックコメントページ、交通総合対策監室交通政策課：新着情報） 石川県庁交通政策課内、行政情報サービスセンター、石川県小松県税事務所、中能登総合事務所、奥能登総合事務所
実施結果	1名から3件のご意見

ご意見に対する考え方

ご意見の概要	左記に対する考え方
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者がスマホなしでも現地や電話で予約しやすいシステムを導入してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> P56取組③に記載のとおり、奥能登地域が共同で導入するAIオンデマンドについてはコールセンターの導入も行い、電話での予約も予定しております。いただいたご意見は今後の施策を検討する上で参考とさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障がい者が乗降しやすい最新のUDデザイン型オンデマンドバスを導入してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> P57取組④に記載のとおり、バス車両のバリアフリー化を促進し、誰もが安全で快適にバスを利用できる環境を整備していくこととしております。いただいたご意見は今後の施策を検討する上で参考とさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> システムの共通化に加えて市町の境界を越えた広域路線を強化してほしい。特に導入実現してほしい路線（輪島市東部地域～柳田町天坂（ファミリーマートやゲンキーがある地点）～能登空港） <p>（理由：輪島市東部から輪島市街地へは地滑り地帯が多く、まだ交通が不安定。能登町柳田経由で生活雑貨を購入しに行ける事は生活の質を上げます。同時に能登空港で北陸鉄道の能登特急バスと連絡乗り継ぎが可能。また将来的に能登空港に救急病院ができた場合も介添者の交通手段が確保できる。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> P52取組①、P56取組②、P59取組①に記載のとおり、移動ニーズを踏まえた運行体系の見直しや各交通機関の連携による利便性向上、災害公営住宅や奥能登公立4病院の再編・統合など復興まちづくりに合わせた取組の推進を行うこととしております。いただいたご意見は今後の施策を検討する上で参考とさせていただきます。

3. 石川県能登地域公共交通計画（案）について

1. (1) 計画策定の目的・計画の位置づけ

目的・背景

- 能登地域の地域公共交通は、令和6年能登半島地震以前から、人口減少、新型コロナ等により、**利用者が大きく減少**
- 震災により、**タクシー事業者の休廃業や路線バスの減便・迂回**を強いられる等、さらに厳しい状況
- 今後、能登が本格的な復興を果たしていくためには、将来の能登の姿を見据え、**持続可能なものとして再構築**していく必要
- 今般、協議会を設置し、4市5町における**広域的な地域公共交通計画**を策定

創造的復興プラン（抜粋）

（取組7）利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

地域住民の生活の足として、さらに能登の交通結節点であるのと里山空港・のと鉄道からの二次交通としても重要な地域公共交通のあり方について、市町や交通事業者などと連携し、利用者のニーズを丁寧に汲み取りながら、将来の能登の姿を見据えた、地域公共交通のリ・デザイン（再構築）に向けた協議を行います。

<内容>

- 自家用有償旅客運送やAIオンデマンド型交通、自動運転などの導入 など



(写真) 小松市提供

(小松市で運行されている自動運転バス)

位置づけ

計画区域

4市5町（七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町）

計画期間（石川県成長戦略及び復興プラン目標年次）

（第一次）令和7年度～14年度

（第二次）令和8年度～14年度

計画の位置づけ

県の上位計画や各市町地域公共交通計画等と整合を図る

石川県能登地域公共交通計画






石川県（上位計画）

- ・石川県成長戦略
- ・石川県創造的復興プラン

各市町

- ・地域公共交通計画
- ・復興プラン

1. (2) 能登地域の公共交通の現状及び問題点

	被災前から抱えていた問題点	被災を機に発生または加速した問題点
 <p>利用者・住民</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少・少子高齢化による利用者の減少 通学の足が限られ、保護者の送迎が負担 高齢者の通院や買い物の移動サービスの低下・喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 被災により<u>人口流出が加速</u> 移動手段を失った被災者（交通弱者）が増加 路線の長期運休による通学や通院等の生活の足への影響
 <p>交通事業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利用者減少及び採算悪化に伴う路線縮小・廃止の悪循環 慢性的な運転士不足 	<ul style="list-style-type: none"> 被災に伴う利用者減により、さらなる<u>路線縮小・廃止の悪循環に陥る懸念</u> 運転士自身の被災・避難による<u>運転士不足の深刻化</u> 被災による施設等の甚大な被害、復旧に多額の費用が発生
 <p>行政・地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一部地域で交通空白が見られ、面的な輸送サービス提供が困難 公共交通に係る<u>行政負担経費が増大</u> 通学や通院等の生活の足が確保されないことが、<u>中長期的な人口流出及び地域衰退の遠因</u> 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバス等の<u>自治体での単独維持が困難</u>になり、交通空白の拡大が懸念 <u>復興まちづくりに合わせた移動手段の確保</u> <u>観光振興など地域活性化に向けた移動手段の確保</u>

1. (3) 能登地域の公共交通が目指す将来像

利用者目線に立った持続可能な地域公共交通 地域公共交通をみんなで支え、ともに創る復興まちづくり

能登地域の暮らしと生業が将来にわたって持続し、被災の前よりもさらに魅力ある地域となるため、利用者目線で公共交通を再生し、能登の創造的な復興を交通で支える

利用者目線に立った持続可能な地域公共交通が実現したら・・・

若者・子育て世代にとっては・・・

- ・ 学生が、行きたい学校に通い、部活動にも参加できるようになります
- ・ 保護者にとっても送迎の負担が軽減されます
- ・ 若者・子育て世代が通学環境の心配なく地域に住み続けることができます

高齢者世代にとっては・・・

- ・ 運転に不安を抱えるお年寄りは、安心して通院できます
- ・ 送迎に頼っていたお年寄りは、好きなときに買い物に行けます
- ・ クルマなしで移動できることで、住み慣れた地域で快適に安心して暮らしていくことができます

能登と他地域との往来は・・・

- ・ クルマを運転できなくても、鉄道・バス・飛行機を利用して能登から金沢・全国へ移動できます
- ・ 観光等で能登を訪れた人が能登の隅々まで行き来し、新たな交流が生まれ、交流人口の創出・拡大につながります

1. (4) 将来像の実現に向けた基本方針

将来像の実現に向けて、下記の基本方針で計画を策定。

なお、地震の影響により従来の公共交通網の姿が大きく変化している中で、昨年度は県都金沢と各市町を結ぶ広域基幹交通の構築を「第一次計画」として取りまとめ、今年度は復興公営住宅の建設など恒久的な住まいの再建に合わせて輸送資源の総動員による能登地域内の公共交通の再構築を「第二次計画」として取りまとめる。

基本方針 1 | 持続可能な公共交通ネットワークの確立

基本方針 2 | 利用者目線に立った公共交通サービスの提供

基本方針 3 | 能登の創造的復興と活性化に資する公共交通の実現

第一次計画 広域基幹交通の構築 (R6年度取りまとめ)

JR七尾線、のと鉄道及び金沢と能登を結ぶ特急バスを広域基幹交通と位置付け、確保・維持及び利用の拡大を図ります

第二次計画 輸送資源の総動員による地域公共交通^(※)の再構築 (R7年度取りまとめ)

県、市町、交通事業者が連携し、利用者のニーズを丁寧に汲み取りながら、地域公共交通の再構築を検討します

※地域公共交通：地域幹線交通（市町間を結ぶ一般バス路線）及び地域内交通（各市町運営コミュニティバス等）

2. 広域基幹交通（第一次計画）における施策体系（1/2）

基本方針1 持続可能な公共交通ネットワークの確立

施策
01

JR七尾線・のと鉄道の持続性確保

1. 安全運行の確保
2. 業務効率化等による経営安定化
3. のと鉄道の鉄道事業再構築事業の実施
4. のと鉄道の普通列車の新型車両への更新

施策
02

特急バスの持続性確保

1. 移動ニーズを踏まえた運行体系の見直し
2. 国・県・市町協調による路線維持への支援
3. 業務効率化等による経営安定化

施策
03

旅客運送事業者の担い手の確保

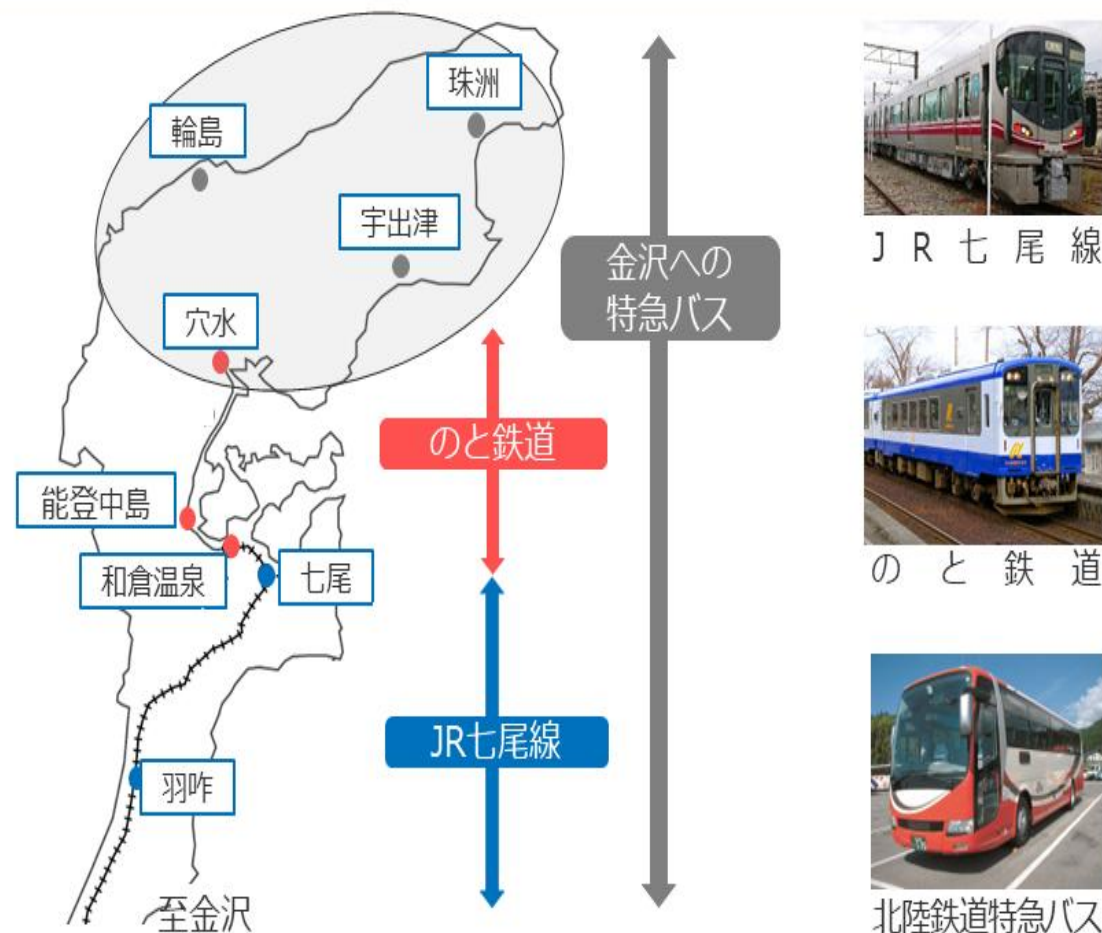
1. 関係機関が連携した担い手確保の推進

施策
04

公共交通を利用するライフスタイルへの転換

1. 公共交通の利用に対する意識の醸成
2. 定期利用者等に対するインセンティブの充実
3. 運転免許証の自主返納者に対する支援

広域基幹交通の維持・確保



J R 七 尾 線



の と 鉄 道



北陸鉄道特急バス

2. 広域基幹交通（第一次計画）における施策体系（2/2）

基本方針2 利用者目線に立った交通サービスの提供

施策
01

交通結節点の機能強化

1. 鉄道駅における列車待ち環境の改善
2. 主要バス停におけるバス待ち環境の改善
3. のと鉄道穴水駅及び周辺の再整備
4. パーク&ライドの推進



（例）ラクナはくい内バス待合室

施策
02

わかりやすく利用しやすい環境の整備

1. 交通DX（キャッシュレス化等）の推進
2. 住民や来訪者に対する一元的なわかりやすい情報提供
3. 各交通機関の連携による利便性の向上
4. バリアフリー化の推進



基本方針3 能登の創造的復興と活性化に資する公共交通の実現

施策
01

創造的復興に向けたまちづくりや観光施策との連携

1. 復興フェーズに合わせた誘客の推進
2. 復興まちづくりと連携した取組の推進
3. 観光列車「花嫁のれん」「のと里山里海号」の運行再開・魅力向上



（例）のと鉄道「語り部列車」

施策
02

地域等と連携した取組による交流人口の拡大

1. 駅周辺の賑わいづくりや企画列車・企画乗車券等の充実
2. 多様な媒体を活用した沿線の観光資源等の発信
3. 能登地域への観光誘客等に向けたPR推進



（例）のと鉄道の取組

3. 地域幹線交通及び地域内交通（第二次計画）策定の概要

輸送資源の総動員による地域公共交通（地域幹線交通・地域内交通）の再構築

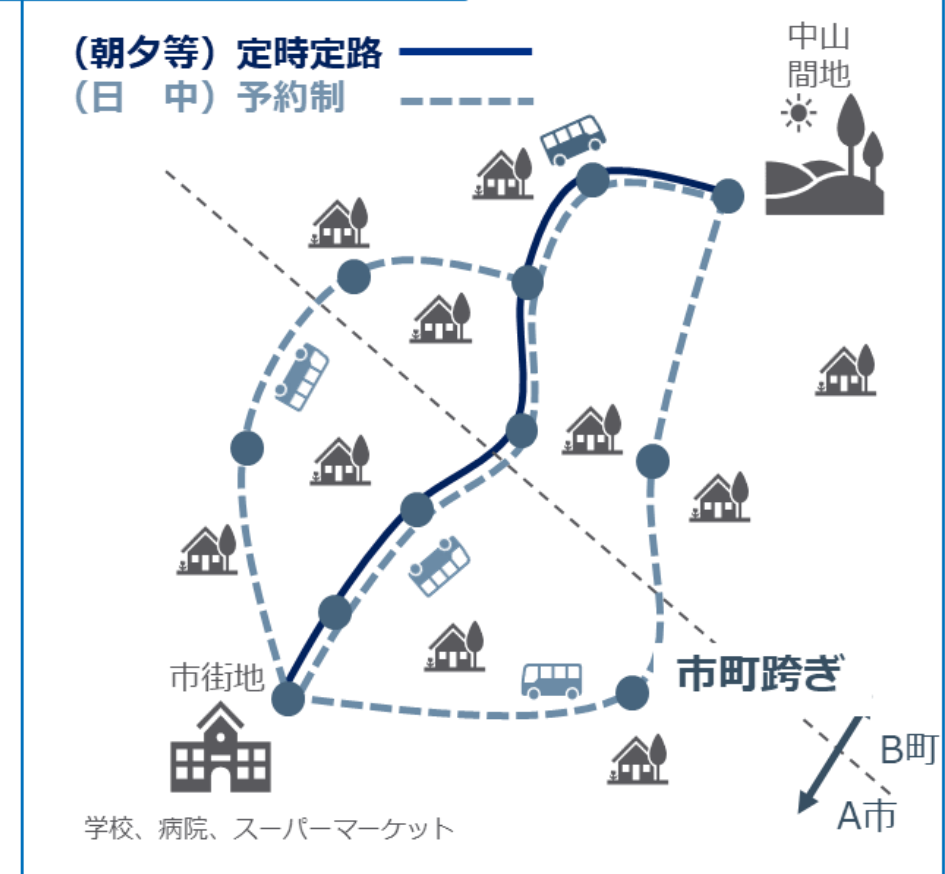


- 輸送実績等：持続可能性を高めるためにより住民の利用実態に応じた運行形態の検討が必要
- アンケート：将来的に公共交通を利用するニーズは高く、利便性の向上を要望する声が多い

- ▶ 現役世代の定住を支えるため、**通学需要の確保を優先し、朝・夕の通学など大量輸送（概ね10人以上/便）が必要な路線・時間帯**については、現状の規模で**定時定路線のバスを維持する**
- ▶ **大量輸送が必要ない路線・時間帯**においても、**高齢者等の通院・買物へのアクセスを確保するため、適切な車両規模への見直しやAIオンデマンド交通など新たな交通モードの導入等を検討し、公共交通の持続性・利便性の向上を図る**

※今後の観光需要や復興公営住宅、奥能登公立4病院の再編・統合など復興まちづくりも考慮したうえで、引き続き検討していくことが必要

再構築イメージ



4. 地域幹線交通及び地域内交通（第二次計画）における施策体系（1/2）

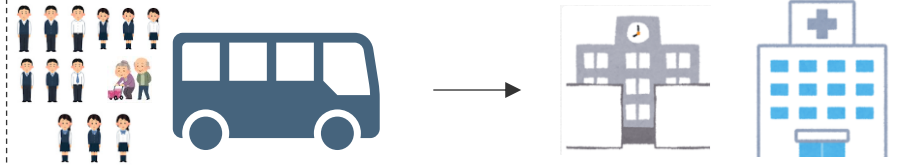
基本方針1 持続可能な公共交通ネットワークの確立

施策
01

定時定路線バスの維持・改善

1. 移動ニーズを踏まえた運行体系の見直し
2. 国・県・市町協調による路線維持への支援
3. 業務効率化による経営安定化
4. 災害時における臨時ダイヤなどの柔軟な対応

例)利用者数が多い路線バス



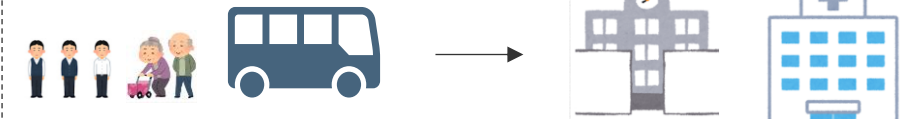
従来どおり、大量輸送が必要

施策
02

輸送手段の総動員による面的交通ネットワークの実現

1. 行政・交通事業者の連携による持続可能で最適な地域公共交通サービスの実現
2. 奥能登2市2町共同でのAIオンデマンド交通の導入
3. AIオンデマンド交通など新たな交通モードの導入支援

例)利用者数が少ない路線バス



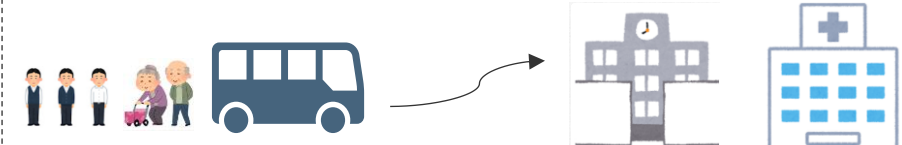
車両規模の適正化も検討

施策
03

担い手の確保

1. 旅客運送事業者の担い手確保の推進
2. 公共ライドシェア等の制度を活用した担い手の確保

例)コミュニティバス・AIオンデマンド交通・タクシー等



路線バスを補完

施策
04

広域運営体制の確立

1. 市町共同でのAIオンデマンド交通における効果的な運営
2. 広域連携による公共交通の効果的な運営体制の構築

4. 地域幹線交通及び地域内交通（第二次計画）における施策体系（2/2）

基本方針2 利用者目線に立った交通サービスの提供

施策
01

わかりやすく利用しやすい環境の整備

1. 住民や来訪者に対する一元的なわかりやすい情報提供
2. 各交通機関の連携による利便性の向上
3. 市町共同でのAIオンデマンド交通におけるスマホアプリによる予約システムやコールセンターの導入
4. 利便性向上のためのインフラ整備（結節点強化）
5. 交通DX（キャッシュレス化等）の推進



施策
02

輸送手段の総動員による面的交通ネットワークの実現【再掲】

1. 行政・交通事業者の連携による持続可能で最適な地域公共交通サービスの実現【再掲】
2. 奥能登2市2町共同でのAIオンデマンド交通の導入【再掲】
3. AIオンデマンド交通など新たな交通モードの導入支援【再掲】

基本方針3 能登の創造的復興と活性化に資する公共交通の実現

施策
01

創造的復興に向けたまちづくりや観光施策との連携

1. 復興公営住宅や奥能登公立4病院の再編・統合など復興まちづくりに合わせた取組の推進
2. 観光周遊での公共交通活用の促進

施策
02

地域等と連携した取組による交流人口の拡大

1. 地域の復興イベント等と連携した取組の推進

5. 石川県能登地域公共交通計画における施策体系

目指す
将来像

地域公共交通をみんなで支え、ともに創る復興まちづくり
利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

基本方針 1

持続可能な
公共交通
ネットワークの確立

(第一次)施策 1 JR七尾線・のと鉄道の持続性確保

取組①：安全運行の確保 取組②：業務効率化等による経営安定化
取組③：のと鉄道の鉄道事業再構築の実施 取組④：のと鉄道の普通列車の新型車両への更新

(第一次)施策 2 特急バスの持続性確保

取組①：移動ニーズを踏まえた運行体系の見直し 取組②：国・県・市町協調による路線維持への支援
取組③：業務効率化等による経営安定化【再掲】

(第一次)施策 3 旅客運送事業者の担い手の確保

取組①：関係機関が連携した担い手確保の推進

(第一次)施策 4 公共交通を利用するライフスタイルへの転換

取組①：公共交通の利用に対する意識の醸成 取組②：定期利用者等に対するインセンティブの充実
取組③：運転免許証の自主返納者に対する支援

(第二次)施策 1 定時定路線バスの維持・改善

取組①：移動ニーズを踏まえた運行体系の見直し
取組②：国・県・市町協調による路線維持への支援
取組③：業務効率化による経営安定化
取組④：災害時における臨時ダイヤなどの柔軟な対応

(第二次)施策 2 輸送手段の総動員による面的交通ネットワークの実現

取組①：行政・交通事業者の連携による持続可能で最適な地域公共交通サービスの実現
取組②：奥能登2市2町共同でのA Iオンデマンド交通の導入
取組③：A Iオンデマンド交通など新たな交通モードの導入支援

(第二次)施策 3 担い手の確保

取組①：旅客運送事業者の担い手確保の推進
取組②：公共ライドシェア等の制度を活用した担い手の確保

(第二次)施策 4 広域運営体制の確立

取組①：市町共同でのA Iオンデマンド交通における効果的な運営
取組②：広域連携による公共交通の効果的な運営体制の構築

基本方針 2

利用者目線に立った
公共交通
サービスの提供

(第一次)施策 1 交通結節点の機能強化

取組①：鉄道駅における列車待ち環境の改善 取組②：主要バス停におけるバス待ち環境の改善
取組③：のと鉄道穴水駅及び周辺の再整備 取組④：パーク＆ライドの推進

(第一次)施策 2 わかりやすく利用しやすい環境の整備

取組①：交通DX（キャッシュレス化等）の推進
取組②：住民や来訪者に対する一元的なわかりやすい情報提供
取組③：各交通機関の連携による利便性の向上 取組④：バリアフリー化の推進

(第二次)施策 1 わかりやすく利用しやすい環境の整備

取組①：住民や来訪者に対する一元的なわかりやすい情報提供
取組②：各交通機関の連携による利便性の向上
取組③：市町共同でのA Iオンデマンド交通におけるスマホアプリによる予約システムやコールセンターの導入
取組④：利便性向上のためのインフラ整備（結節点強化）
取組⑤：交通DX（キャッシュレス化等）の推進

(第二次)施策 2 【再掲】輸送手段の総動員による面的交通ネットワークの実現

取組①：【再掲】行政・交通事業者の連携による持続可能で最適な地域公共交通サービスの実現
取組②：【再掲】奥能登2市2町共同でのA Iオンデマンド交通の導入
取組③：【再掲】A Iオンデマンド交通など新たな交通モードの導入支援

基本方針 3

能登の創造的復興と
活性化に資する
公共交通の実現

(第一次)施策 1 創造的復興に向けたまちづくりや観光施策との連携

取組①：復興フェーズに合わせた誘客の推進
取組②：復興まちづくりと連携した取組の推進
取組③：観光列車「花嫁のれん」「のと里山里海号」の運行再開・魅力向上

(第一次)施策 2 地域等と連携した取組による交流人口の拡大

取組①：駅周辺の賑わいづくりや企画列車・企画乗車券等の充実
取組②：多様な媒体を活用した沿線の観光資源等の発信
取組③：能登地域への観光誘客等に向けたPR推進

(第二次)施策 1 創造的復興に向けたまちづくりや観光施策との連携

取組①：復興公営住宅や奥能登公立4病院の再編・統合など復興まちづくりに合わせた取組の推進
取組②：観光周遊での公共交通活用の促進

(第二次)施策 2 地域等と連携した取組による交流人口の拡大

取組①：地域の復興イベント等と連携した取組の推進

6. 石川県能登地域公共交通計画における評価指標について

第VI章 計画の達成状況の評価

	指標	現況値	目標値 (R14)	目標値の考え方	計測方法
広域基幹交通 (第一次計画)	広域基幹交通の利用者数 (JR、七尾線、のと鉄道、特急バス)	8,416人/日 (R5)	9,300人/日	人口減少が見込まれる中でも、各取組により、広域基幹交通の利用者の増加を目指します。	交通事業者保有の乗降データにより 毎年計測
	広域基幹交通の収支率 (のと鉄道、特急バス)	のと鉄道 37% 特急バス 72% (R5)	のと鉄道 37% 特急バス 72%	のと鉄道は、鉄道事業再構築の各取組により利用者増を図り、収支率の改善を目指します。特急バスは、人口減少が見込まれる中でも、路線再編などの各取組により、地震前の水準維持を目指します。	交通事業者保有の乗降データにより 毎年計測
地域幹線交通及び 地域内交通 (第二次計画)	地域幹線交通及び地域内交通の 人口あたり利用者数 (一般路線バス、コミュニティバス等の地域内交通(AIオンデマンド交通含む)。なお、スクールバスは除く)	8.8人 (人口一人当たり・年間) (R6)	8.8人 (人口一人当たり・年間)	人口減少が見込まれる中でも、各取組により、現状水準維持を目指します。	利用者数はバス事業者及び各自治体の実績により毎年計測。人口は「石川県の人口と世帯」現況値はR7.4.1現在
	一般路線バスの収支率	26% (R6)	26%	路線バスの持続的な運行を支えるため、利便性向上による利用者数増の結果としての運賃収入増加及びニーズに合わせた効率的運行による、路線バスの収支率の向上を目指します。	バス事業者の実績により 毎年計測
共通	公的財政負担額 (石川県と能登地域の市町(4市5町)の公共交通に対する公的財政負担額の合計)	1,670 百万円/年 うち 路線バス 490 百万円/年 (R6)	1,670 百万円/年 うち 路線バス 490 百万円/年	人口減少が見込まれる中でも、各取組により利用者増等を図り、公的財政負担額の現状水準維持を目指します。 ※住民へのサービス向上により、負担額が増加することを否定するものではありません。	県及び各市町 財政負担実績により 毎年計測

「交通空白」解消 パイロット・プロジェクトについて

令和 8 年 3 月 2 6 日

令和 7 年度 第 3 回 石川県能登地域公共交通協議会

目次

- 1. プロジェクトの内容 | P01
- 2. 共通AIオンデマンド交通システム | P02
- 3. 広域運営体制づくりの検討 | P05
- 4. 各市町の運行概要 | P06

1. プロジェクトの内容

- 県内では初めて県が主導し、**能登地域公共交通協議会を設置し、地域公共交通計画の策定**を実施
（1次計画：能登・金沢間の交通、2次計画：能登地域内の交通）
- パイロットプロジェクトでは、2次計画と連動させる形で、市町の行政単位に捉われず公共交通の持続可能性の確保を図るため、**奥能登4市町共通のAIオンデマンド交通システムの導入、広域運営体制づくりの検討**を実施

〔奥能登4市町共通のAIオンデマンド交通システムの導入〕

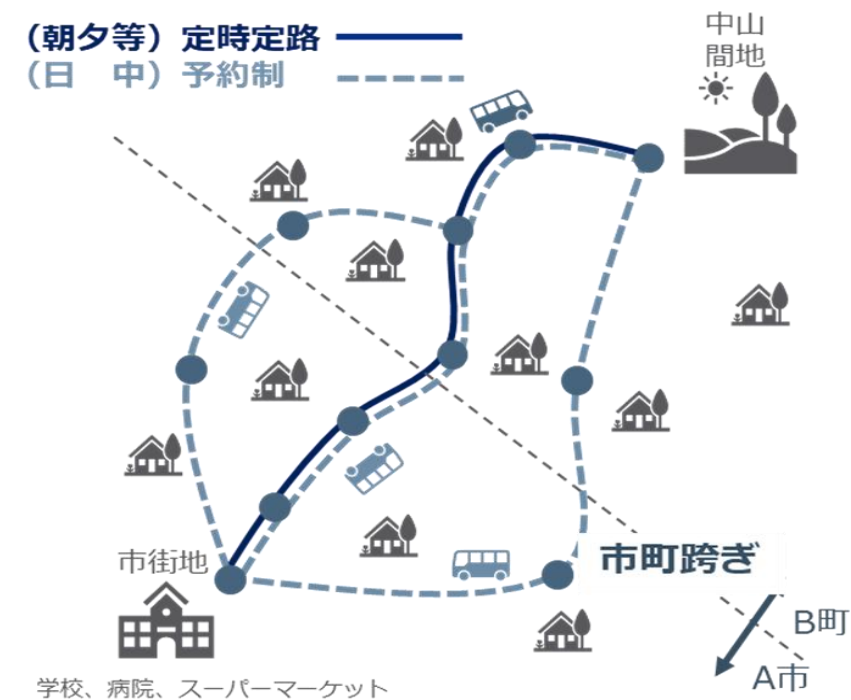
- ▶ 各市町の個別ニーズや広域的な移動など様々な要望に対応できるシステムを構築・導入することで、利用実態に見合った効率的で持続可能な公共交通の実現

〔広域運営体制づくりの検討〕

- ▶ 将来にわたり持続可能な公共交通を維持・確保するため、広域運営体制を調査・検討

	短期（～R7年度末）		中期（～R10年度末）	長期（～R14年度末）
	R6年度	R7年度	R8～10年度	R11～14年度
【能登4市5町】 第一次計画	金沢と能登地域への 広域移動手段の確保		JR七尾線・のと鉄道・特急バスの運行・維持・利用拡大	
【能登4市5町】 第二次計画	新たな交通手段の活用を含めた 路線バス、コミュニティバス等の再構築を検討		実証運行	実証実験の結果を 踏まえて運行
【奥能登2市2町】 パイロット・プロジェクト	※反映 共通AIオンデマンド交通システム導入 広域運営体制づくりの検討			

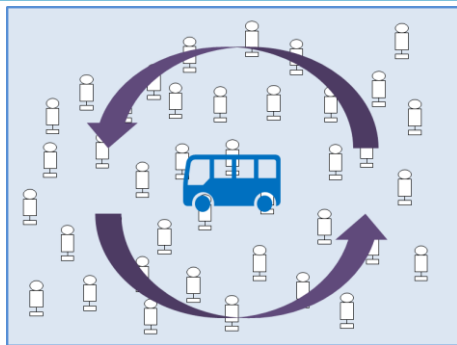
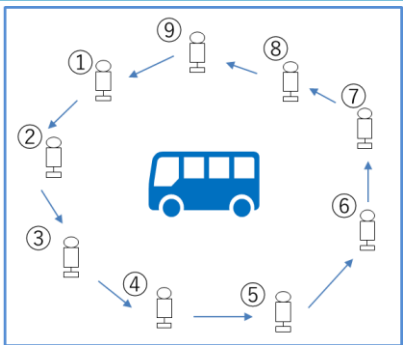
再構築イメージ



2. 共通 A I オンデマンド交通システム（運行形態）

- **市街地の運行エリアではフルデマンド型を導入**
 - ▶ 市街地内の停留所の増設による利便性の向上と利用者ニーズに応じた効率的な配車・運行が可能に
- **郊外と市街地を結ぶ運行エリアでは市街地における着発時間を固定する運行を導入**
 - ▶ 郊外の主要地点における停留所の増設により郊外の利便性も確保しつつ、市街地内の主要施設に集中する住民の移動ニーズも考慮したうえで、運行の効率化が可能

市街地におけるフルデマンド型導入の場合の運行要件



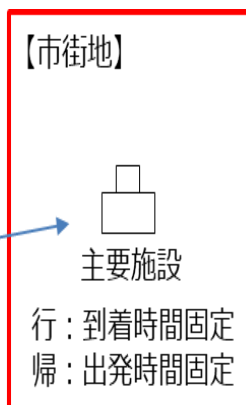
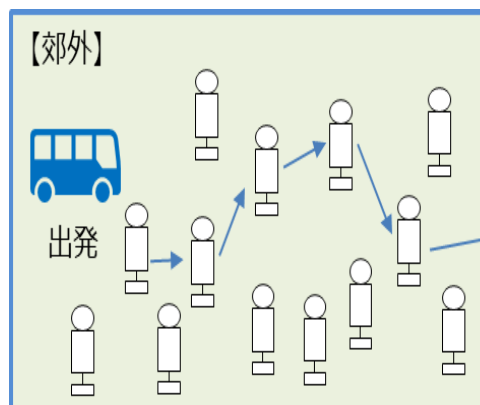
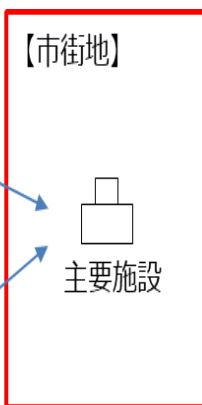
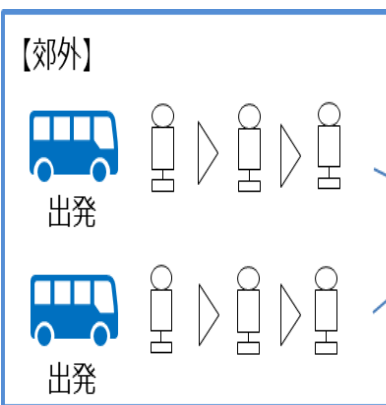
【従来】

- ・定時定路線での運行（例）1日4便
- ・路線から遠い方は利用しにくい

【導入後】

- ・利用者の予約に応じて効率的に配車（例）8～17時の間、予約に応じて運行
- ・停留所を増やすことができ、住民の利便性向上

郊外と市街地を結び、市街地における着発時間を固定する場合の運行要件



【従来】

- ・定時定路線での運行（例）1日2往復、週2日1往復など
- ・路線から遠い方は利用しにくい

【導入後】

- ・市街地の着発時間を固定し、予約に応じて配車（例）1日2往復、週2日1往復など（予約制）
- ・停留所を増やすことができ、住民の利便性向上
- ・路線の集約化で車両の減など運行効率化が可能
- ・予約が無い場合運行しないことで、効率化が可能

2. 共通 A I オンデマンド交通システム（共同化による効果）

- 人口減少等により財政力に余裕があるとは言えない4市町において、共通のA I オンデマンド交通システムを導入(共同化)することで、**初期構築・維持費用におけるスケールメリットを生み出すことが目的**
- 共通システムでのオンデマンド交通の構築・運行を通して、**地域交通の協業化の契機としても活用**

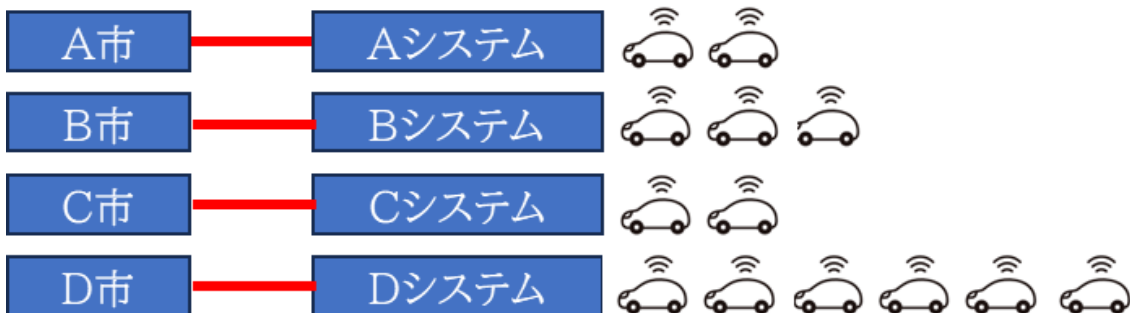
〔初期構築〕

項目	削減率
運行管理システム ※エリア面積・仕様で変動	▲50%
導入支援費 ※エリア面積・仕様で変動	▲50%
コールセンター	▲50%
広報関連 ※チラシ・ポスターデザイン印刷・HP作成	▲25%
合計	▲48%

〔維持費用〕

項目	削減率
運行管理システム費 ※台数/仕様で変動	▲66%
サポート費 ※台数/仕様で変動	▲80%
コールセンター	▲27%
合計	▲55%

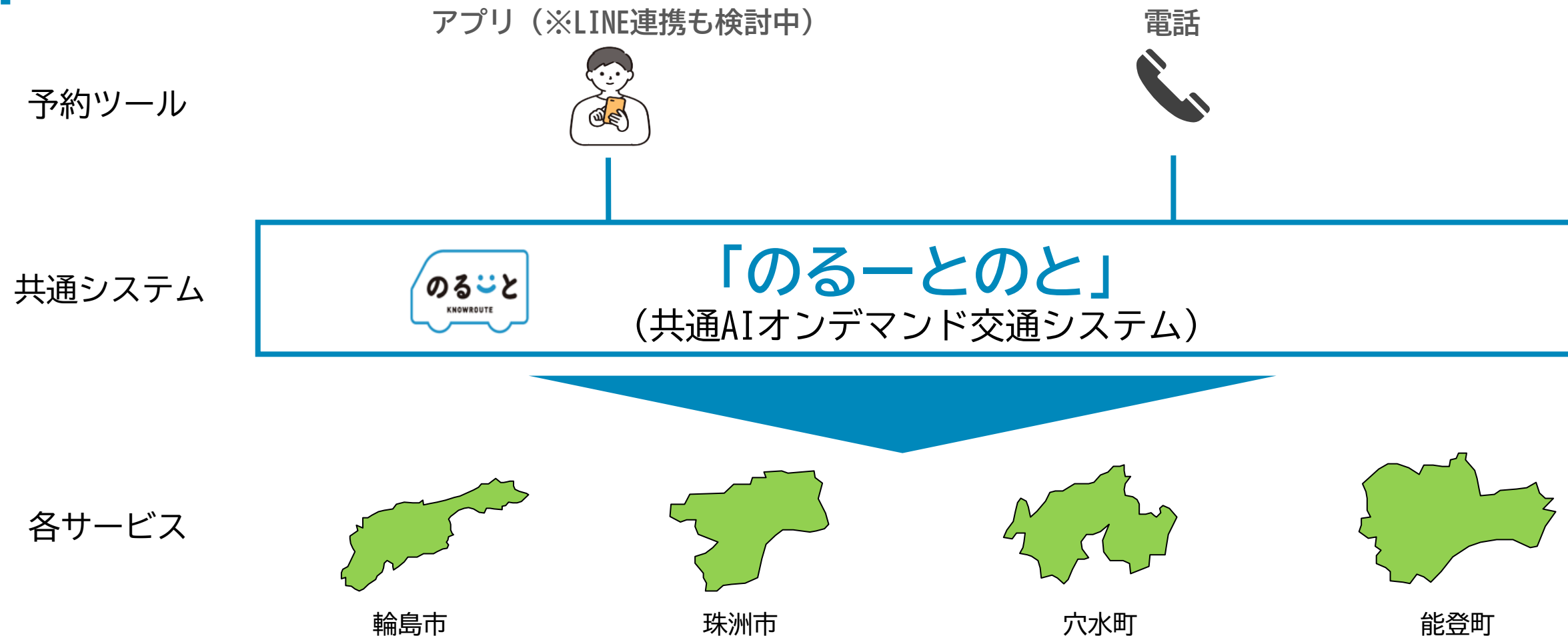
〔イメージ〕 ※1自治体ごとに個別のシステムと必要の台数（2台～6台）を紐づけて導入する場合と4自治体で一つのシステムとして全車両数（13台）を紐づけた場合を比較



2. 共通 A I オンデマンド交通システム（来年度事業）

- 奥能登 2 市 2 町 共通 A I オンデマンド交通システムの名称：「**のるーとのと**」
- 各地域において関係者との協議を行ったのち、住民向けの説明会・事業者向けの研修会等を行い、**令和 8 年秋頃より実証運行を開始予定**

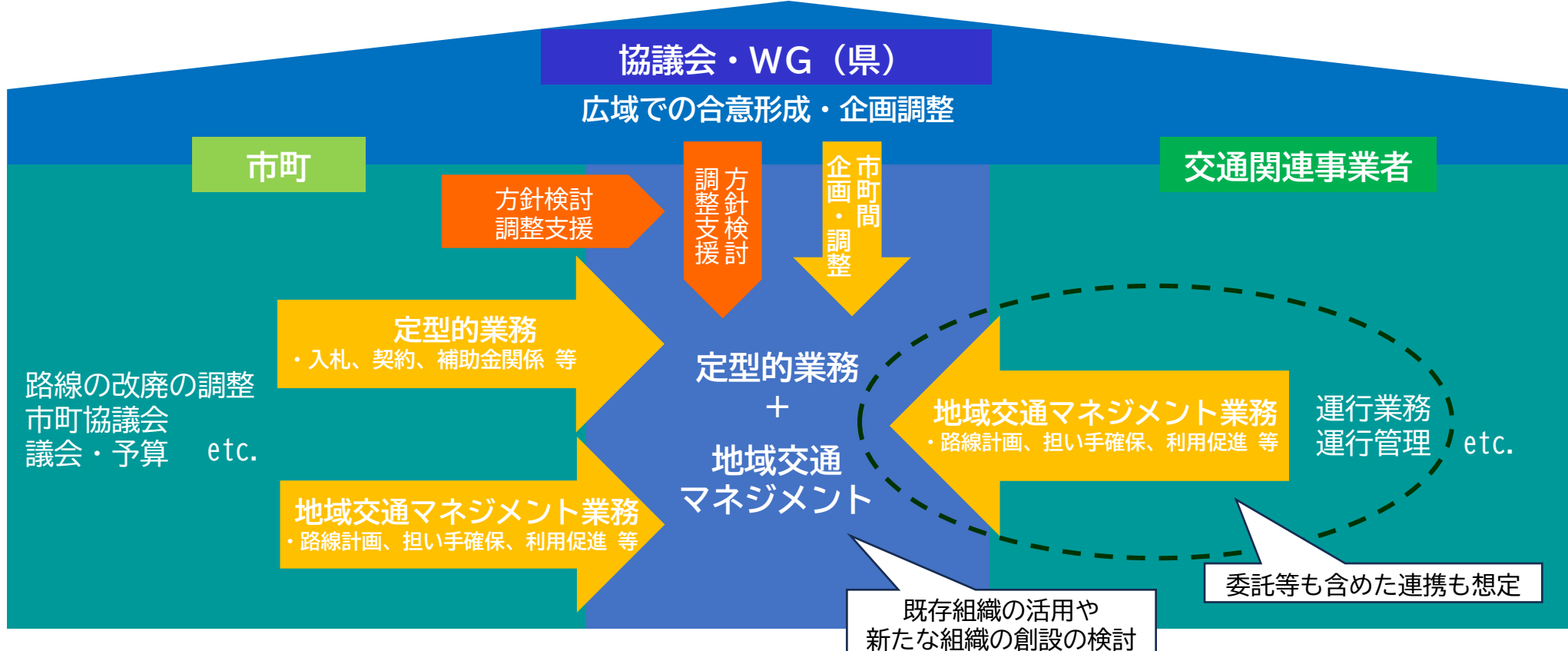
予約イメージ



3. 広域運営体制づくりの検討

- 地域全体における効率的・効果的な公共交通ネットワークの構築を図るべく、広域運営体制づくりを検討
 - ◆ **協議会（事務局・県）**において、市町や交通事業者と**広域での合意形成・調整**
 - ◆ **各市町・交通関連事業者の業務**について、定型的業務（契約・補助金業務等）や、交通マネジメント業務（路線計画、担い手確保、情報発信等）の**連携・集約による効率化や機能強化を検討**
⇒ **協議会WGにおいて、具体的な検討を進めていく**

将来的な広域運営体制のイメージ



○ 輪島市街地において運行しているAIオンデマンド交通「のらんけ+」から「のるーとのと」に移行。
今秋の実証運行においては、**現運行形態を踏襲し、2市2町共通のシステムへと移行。**

運行日・時間

- ・ 平日 8:00~16:00（土日祝、12/29~1/3は運休）

予約方法

- ・ 乗車1時間前までに電話予約 or アプリ予約
（電話予約の受付は平日8:00~16:00）

利用料金

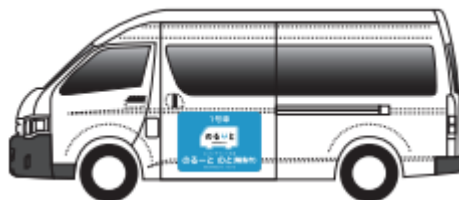
- ・ 1人1回200円（高校生以下無料）

停留所

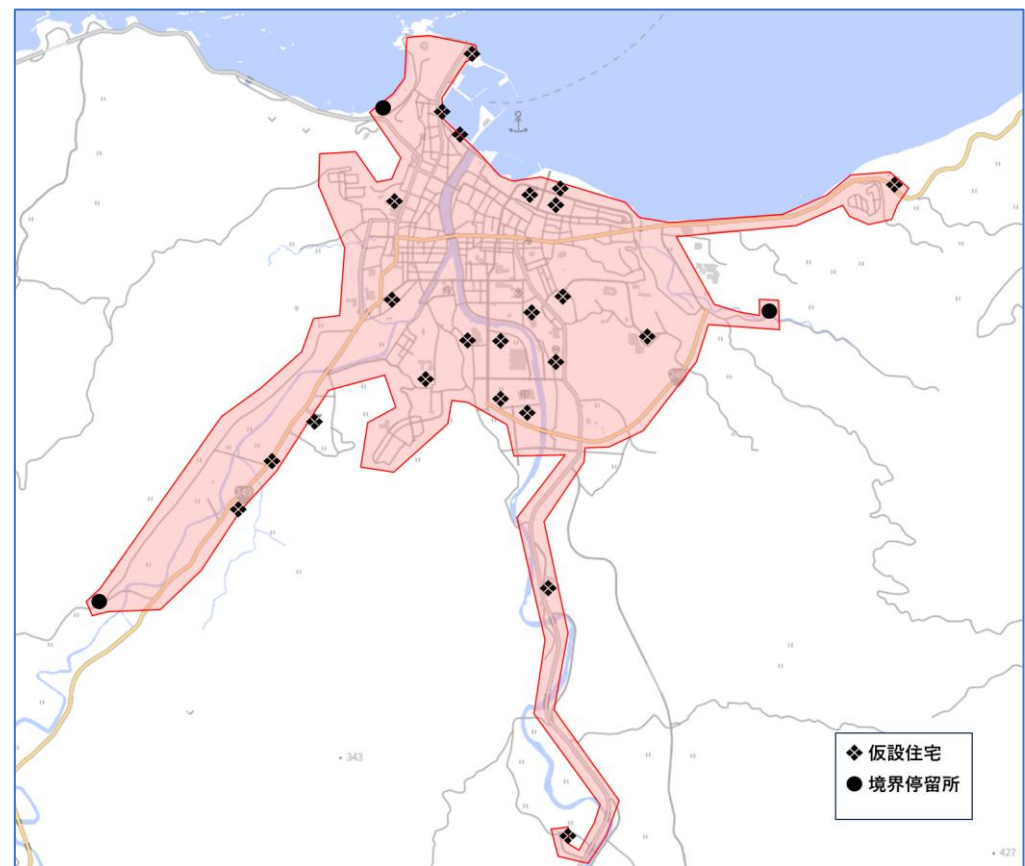
- ・ 95箇所（病院、商店、仮設住宅等）

運行車両

- ・ ワンボックスカー2台 / 定員9名



運行エリア



4. のるーとのと（珠洲）概要

【運行概要】

運行エリア	運賃	停留所	運行方式	運行曜日	運行時間	受付	台数	電話受付
まちなかルート	無料	設置 【すずバス停留所】	自由経路型 デマンド	平日	09:00～ 14:00	7日前～ 1時間前	1台	平日のみ
高屋・馬縹ルート	無料	設置 【すずバス停留所】	定路線型 デマンド 【市街地発着時間指定】	水・金	まちなか 09:30着 12:15発	7日前～ 1日前	1台 【同一車両での運行】	
宝立・上戸ルート	無料	設置 【すずバス停留所】	自由経路型 デマンド 【市街地発着時間指定】	火・木	まちなか 09:30着 12:15発	7日前～ 1日前		

【備考】

- ・高屋・馬縹ルート、宝立・上戸ルートの市街地での乗降可能箇所は3か所（総合病院・市役所・すずなり館）
- ・将来を見据え、全すずバスルートの要件定義済み



高屋・馬縹ルートは定路線型デマンド

まちなかルートは自由経路型デマンド

宝立・上戸ルートは発着時間指定の自由経路型デマンド

4. のるーとのと（穴水）概要

穴水町 AIデマンド運行計画（案）

事業内容

令和6年能登半島地震の影響で、路線バスの減便などにより生活に必要な移動手段を確保できない地域住民のため、足の確保を図る。奥能登4市町と県を含め、持続可能な能登地域の交通網の構築を行い、住み慣れた地域での生活を支援する。実証運行開始は、令和8年度秋ごろを目指す。

<既存のコミュニティバス>



穴水町では、町の運営するバスとして「市街地循環バス（旧100円バス）」、「見守りバス」、「外出支援バス」、「スクールバス」があり、そのうち柿3つについての統合を検討している。なお、震災の影響のため、現在全便無償運行中。

①市街地循環バス（観光交流課）

平日運行（予約不要）
定時定路線（朝1便目前半のみ通勤通学路線）
市街地のみ運行 現在4便

A

②見守りバス（観光交流課）

週4便（事前予約制）デマンド便ではあるが実質定時路線
町内3ルート⇄市街地主要施設
予約受付（電話のみ）：穴水町シルバー人材センター

B

③外出支援バス（住民福祉課）

週7便（事前予約制）デマンド便ではあるが実質定時路線
町内各地区⇄町内病院
予約受付（電話のみ）：穴水町社会福祉協議会

移行

<AIオンデマンドシステム導入メリット>

- ・システムおよび予約受付管理を4市町合同で行うので導入、システムの維持管理コストが単独導入時より安くなる。
- ・予約がある場所のみの運行になるため、定時運行より自由に移動がしやすい。
- ・既存コミュニティバスより広い範囲をカバーできる。

<統合後イメージ>

AIオンデマンドシステムの奥能登4市町合同での導入。AIオンデマンドとは、AIが乗合状況や道路状況等に応じ効率的なルートを生成、利用する出発地・目的地周辺での乗り降りが可能となるシステム。

要事前予約

受付は電話およびオンライン。
予約は他3市町を合わせて
1つのコールセンターで行う。



のるーと穴水（仮）（観光交流課）

運行区分を市街地と各方面4地区の5区分に分け、市街地は平日、各方面は週2日ずつの運行を予定。乗車下車ポイントは、既存のコミュニティバスで使用していた場所と、北鉄能登バスのバス停を想定。今後の災害公営住宅等も追加予定。

A 市街地 平日運行

朝1便目のみ予約不要の定時定路線。2便目以降は、要予約。予約のある場所のみを不定路線で巡るAIオンデマンド。

B 市街地以外各方面4地区 各方面週2日運行 要予約AIオンデマンド。1日2台で、2地区ずつ運行予定。



分けと乗降車ポイント（案）

4. のるーとのと (能登町) 概要

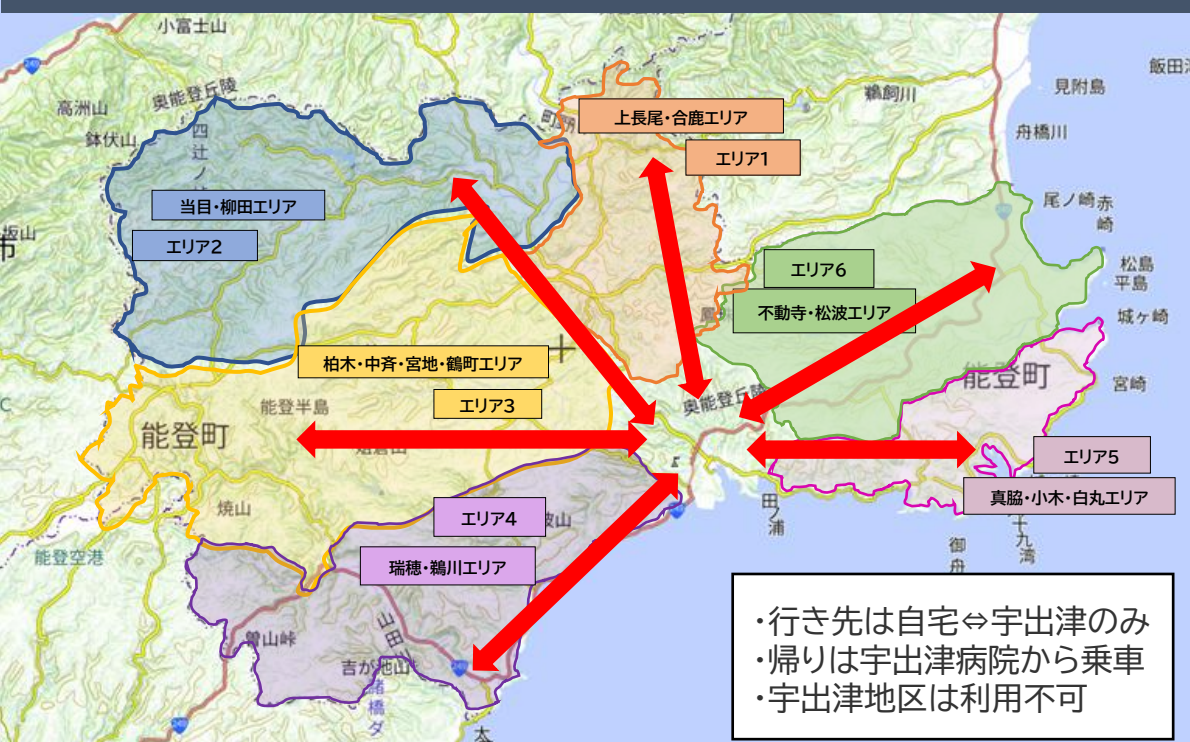
「能登町予約制乗合タクシー」にAIオンデマンドシステムを導入し、
「のるーとのと(能登町)」としてR8年秋以降に運行開始

料金(片道)	700円
運行便	運行時間 (エリアによって前後あり)
おでかけ1便	宇出津着8:30
おでかけ2便	宇出津着10:00
おかえり1便	宇出津発12:00
おかえり2便	宇出津発13:00
おかえり3便	宇出津発14:00

【変更点】

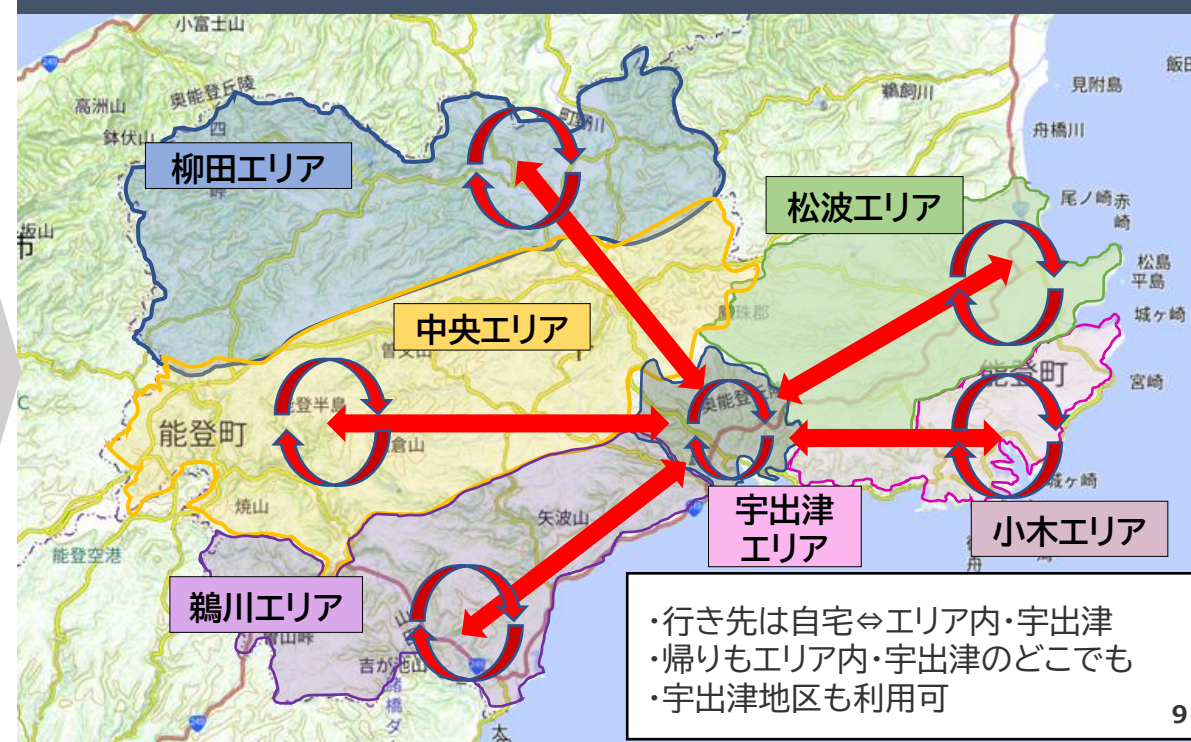
- ・予約方法 電話受付のみから、電話・スマホ・パソコンに拡大
- ・利用者 能登町民のみから、観光客などすべての方に拡大
- ・運行方法 自宅から宇出津のみから、エリア内どこでも可、宇出津での乗り場拡大

能登町予約制乗合タクシーエリア図



R8秋
移行

のるーとのと(能登町)エリア図



令和 8 年度 協議会事業計画・予算（案）について

令和 8 年 3 月 2 6 日

令和 7 年度 第 3 回 石川県能登地域公共交通協議会

1. 協議会・ワーキングの開催

- ・ 地域公共交通計画の進捗状況の確認・協議
- ・ 路線ネットワークの維持・確保に関する検討
- ・ 広域運営体制の構築に関する検討 等

2. 新たな交通モード研究会の開催

- ・ 国と連携し、新交通モード（A I オンデマンド交通や公共ライドシェア、日本版ライドシェア、自動運転等）の事例紹介や先進事例の紹介、各市町の取組の共有、国補助制度の紹介等を実施

3. 奥能登4市町共通A I オンデマンド交通事業の推進

- ・ 市町内における実証運行の実施（秋頃開始予定）
※実証運行の経費は各市町で負担予定

事業概要（協議会・ワーキング・新たな交通モード研究会）

- ・計画の進捗や課題、状況の変化に応じた公共交通の再編、奥能登公立4病院の再編・統合や観光誘客の本格再開などへの対応などに向けて**継続的に協議会・ワーキング(奥能登・中能登)の開催**
- ・新たな交通モード（A I オンデマンド交通・公共ライドシェア等）の導入ノウハウを共有すべく、**新たな交通モード研究会の開催**

1. 協議会・ワーキング（奥能登・中能登）

計画

- ・現役世代の定住を支えるため、通学需要の確保を優先し、朝・夕の通学など大量輸送(概ね10人以上/便)が必要な路線・時間帯については、現状の規模で定時定路線のバスを維持する
- ・大量輸送が必要ない路線・時間帯においても、高齢者等の通院・買物へのアクセスを確保するため、適切な車両規模への見直しやA I オンデマンド交通など新たな交通モードの導入等を検討し、公共交通の持続性・利便性の向上を図る

検討課題

- ・地域公共交通計画の進捗状況の確認・協議
- ・路線ネットワークの維持・確保に関する検討
- ・広域運営体制の検討 等

2. 新たな交通モード研究会

計画

- ・大量輸送が必要ない路線・時間帯においても、高齢者等の通院・買物へのアクセスを確保するため、適切な車両規模への見直しやA I オンデマンド交通など新たな交通モードの導入等を検討し、公共交通の持続性・利便性の向上を図る

概要

- ・国と連携し、新交通モードの事例紹介や先進事例の紹介、各市町の取組の共有、国補助制度の紹介等を実施

検討課題

- ・A I オンデマンド交通
- ・公共ライドシェア・日本版ライドシェア
- ・自動運転 等

事業概要（奥能登4市町共通AIオンデマンド交通事業の推進）【再掲】

- ・奥能登2市2町共通AIオンデマンド交通システムの名称：「**のるーとのと**」
- ・各地域において関係者との協議を行ったのち、住民向けの説明会・事業者向けの研修会等を行い、**令和8年秋頃より実証運行を開始予定**

予約イメージ

アプリ（※LINE連携も検討中）

電話

予約ツール



共通システム



「のるーとのと」
(共通AIオンデマンド交通システム)

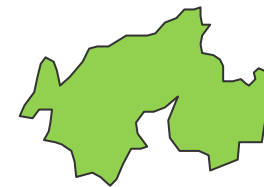
各サービス



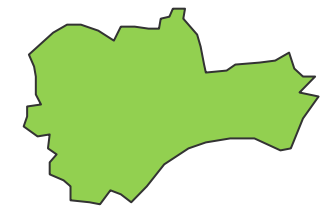
輪島市



珠洲市



穴水町



能登町

【歳入】 (単位：円)

款	項	目	予算額	備考
1 負担金	1 負担金	1 負担金	2,000,000	石川県負担金
合計			2,000,000	

【歳出】 (単位：円)

款	項	目	予算額	備考
2 事業費	1 事業費	1 事業費	2,000,000	協議会・ワーキンググループ・新たな交通モード研究会の開催
合計			2,000,000	

令和8年3月26日

令和7年度地域公共交通再構築調査事業の評価について（のと鉄道）**1. 事業評価の目的**

地域公共交通確保維持改善事業（地域公共交通再構築調査事業）は、毎年度、協議会等自らによる補助対象事業の実施状況の確認、評価を行い、その結果を国へ報告するとともに、公表することとされている。

2. 評価対象

○対象事業

- ・「ポケモン列車」や「震災語り部観光列車」を活用した利用促進
- ・クーポン付きデジタル乗車券の割引販売を通じた利用促進及び沿線店舗での消費拡大

○事業期間

令和7年4月1日～令和8年2月28日

3. 事業評価

一次評価として「計画通り事業は適切に実施された」と評価

- ・ポケモン列車、観光列車を活用した新たな取り組みにより、課題抽出や内容の磨き上げに
取り組んだ
- ・デジタル乗車券の実証により、利用者属性のデータ収集や運用面での課題抽出を行った

4. 今後の展望

- ・実証により得られた顧客データに基づいた企画を実施し、更なる利用者増に努める。
- ・抽出された課題を検証することで、利用者の利便性向上及び従業員の業務効率化を図り、より収益性の高い事業モデルの構築を行っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和8年1月30日

協議会名:石川県能登地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域公共交通再構築調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画等の計画策定等に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ポケモン列車」や「震災語り部観光列車」を活用した利用促進 ・クーポン付きデジタル乗車券の割引販売を通じた利用促進及び沿線店舗での消費拡大 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポケモン列車、観光列車を活用した新たな取り組みにより、課題抽出や内容の磨き上げに取り組んだ ・デジタル乗車券の実証により、利用者属性のデータ収集や運用面での課題抽出ができた 	A	計画通り事業は適切に実施された。	<p>実証により得られた顧客データに基づいた企画を実施し、更なる利用者増に努める。</p> <p>また、抽出された課題を検証することで、利用者の利便性向上及び従業員の業務効率化を図り、より収益性の高い事業モデルの構築を行っていく。</p>

のと鉄道 令和 8 年度鉄道事業再構築事業について

令和 8 年 3 月 2 6 日

令和 7 年度 第 3 回 石川県能登地域公共交通協議会

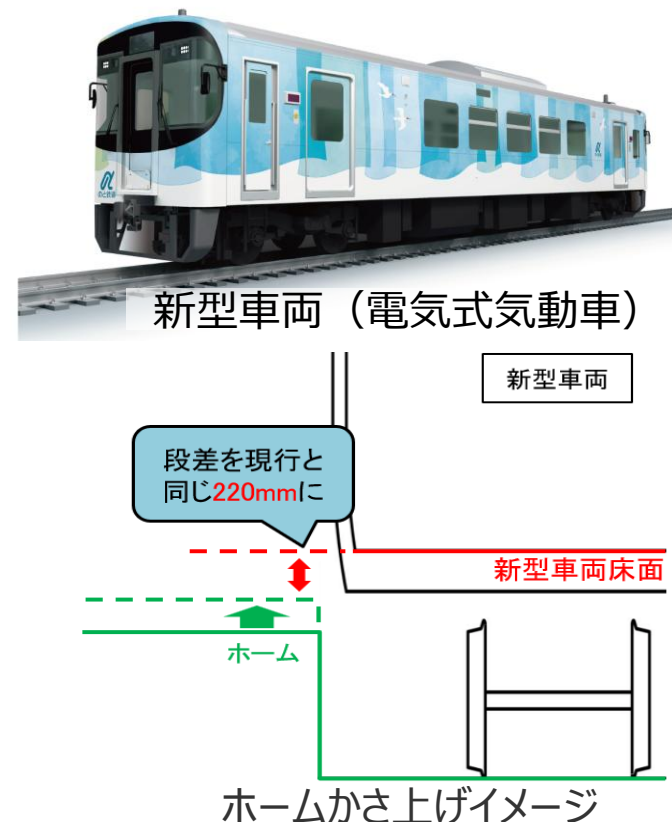
令和8年度鉄道事業再構築事業について

- ・令和7年6月に**国の鉄道事業再構築事業の認定**を受け、**10年間の再構築事業を開始**
→計画期間：令和7年7月1日～令和17年3月31日 総事業費：約74億円
- ・かさ上げされた国支援（1/3→1/2）も活用し、**車両更新等の設備投資や利用促進の取り組みを実施**
- ・令和8年度は計画に基づき**約16億円**の設備投資を予定

R8事業内訳

(単位：千円)

内容	総事業費
①車両更新 ・普通列車（電気式気動車）を3両更新 （参考：R9.R10にも各2両更新）	1,300,000
②ホームかさ上げ ・電気式気動車に合わせてホームのかさ上げを実施 （田鶴浜～穴水駅の詳細設計、田鶴浜駅のかさ上げ）	177,000
③レール・まくら木交換 ・レール重軌条化、PCマクラギ化含む既存設備の交換	93,739
合計	1,570,739



「地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統確保維持費国庫補助金）」
 にかかる石川県能登地域公共交通計画「別紙」の変更（案）

＜議事概要＞

令和 8 年 4 月 1 日に北鉄金沢バス(株)が北陸鉄道(株)に吸収合併される事となった。これにより、輪島特急は「北鉄能登バス(株)」と「北陸鉄道(株)」との共同運行となるため、地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統確保維持費国庫補助金）計画「別紙」の変更認定申請を国へ行うものである。なお、今回の変更による国庫補助金計画額の変動はなく、名義の変更に留まる。

石川県能登地域公共交通計画「別紙」変更案（抜粋）

令和 8 年 3 月 2 6 日

（名称）石川県能登地域公共交通協議会

項目 1～3 略
4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者
<p>→（表 1）のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行事業者決定の経緯 本計画に挙げられている地域間幹線系統は、北鉄能登バス株式会社、北鉄金沢バス株式会社、北陸鉄道株式会社及び能登島交通株式会社の計 3 社により運行されている。 これらの事業者は、厳しい経営状況の中、地域住民の移動手段の確保という使命感から、当該バス路線を継続して運行しているところであり、今後引き続き、上記の運行事業者による当該バス路線の継続が必要である。 ・運行予定期間 R8 年度（R7. 10. 1～R8. 9. 30） R9 年度（R8. 10. 1～R9. 9. 30） R10 年度（R9. 10. 1～R10. 9. 30）
5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額
→（表 2）のとおり
項目 6～8 略
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項 【地域間幹線系統のみ】
→「別紙 生産性向上の取組」のとおり。
項目 10～19 略

表1 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者(地域間幹線系統)

令和8年度

都道府県 市区町村	運行予定者名	運行系統名 (申請番号)	確保維持事業に要する 国庫補助額 (千円)	特例措置
石川県 羽咋市 志賀町 輪島市 能登町 珠洲市 穴水町 金沢市 内灘町 かほく市	北鉄能登バス	富来	7,231.2	○
	北鉄能登バス 北鉄金沢バス 北陸鉄道	能登方面特急 (輪島特急)	53,062.5	○
	北鉄能登バス	能登方面特急 (宇出津接続)	7,248.9	○
	北鉄能登バス	能登方面特急 (珠洲接続)	7,535.2	○
合 計			75,077.0	

都道府県 市区町村	運行予定者名	運行系統名 (申請番号)	確保維持事業に要する 国庫補助額 (千円)	特例措置
七尾市	能登島交通	曲	9,730.2	○
合 計			9,730.0	

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額について(概要)

令和8年度

(単位:千円)

運行予定事業者	運行系統名	費用総額 の見込額 ①	経常収益 の見込額 ②	欠損額 ③ ①-②	補助対象 経費 ④	国庫補助金 内定申請額 ⑤ ④×1/2	欠損額から 国庫補助を 除いた額 ③-⑤	欠損額から国庫補助を 除いた額に対する負担額													
								石川県	七尾市	羽咋市	志賀町	輪島市	能登町	珠洲市	穴水町	金沢市	内灘町	かほく市	事業者		
北鉄能登バス	富来	32,138.0	11,730.0	20,408.0	14,462.0	7,231.0	13,177.0	7,231.0		718.2	2,054.8									5,946.0	
北鉄能登バス 北鉄金沢バス 北陸鉄道	輪島特急	235,834.0	81,434.0	154,400.0	106,125.0	53,062.0	101,338.0	53,062.0			0.0	0.0									48,276.0
北鉄能登バス	宇出津接続	32,217.0	10,709.0	21,508.0	14,498.0	7,249.0	14,259.0	20,879.0				0.0	20,879.0								0 (実欠損を県・能登町で負担)
北鉄能登バス	珠洲接続	34,483.0	19,412.0	15,071.0	15,070.0	7,535.0	7,536.0	14,865.0				0.0	0.0	14,865.0							0 (実欠損を県・珠洲市で負担)
能登島交通	曲	43,245.0	17,975.0	25,270.0	19,460.0	9,730.0	15,540.0	9,730.0	9,730.0												-3,920.0

※記載している経費等は試算のものであり、今後変動する可能性があります。

生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

下記の内容は、実現可能性を含め、今後検討を行うものである。

- (1) 事業者名：北鉄金沢バス株式会社北陸鉄道株式会社、北鉄能登バス株式会社
システム名：能登方面特急バス（輪島特急）
運行区間：金沢駅西口～のと里山空港～輪島駅前

①取組内容

- ・能登方面特急バス（輪島、珠洲、宇出津）の重複区間（金沢～のと里山空港）を整理・統合し、のと里山空港を拠点とした、ハブ&スポーク型の路線ネットワークに再編することにより、金沢～奥能登地域の便数を震災前と同程度以上に確保した持続可能性と利便性の高い特急バスネットワークに再構築する。
- ・乗降データから、奥能登各地域から、沿線の金沢医科大学病院および石川県立中央病院へのアクセスを考慮したダイヤを設定し、利便性向上を図る。
- ・クレジットカードタッチ決済の導入。
- ・補助金を活用して運行していることを車内放送でご理解いただくことを通しての利用促進啓発。

②実施主体：北鉄金沢バス株式会社北陸鉄道株式会社、北鉄能登バス株式会社

③効果目標

令和14年度の特急バスの収支率72%（震災前令和5年度の維持）を目指す

④スケジュール

- ・ハブ&スポーク型の路線ネットワークの再編（R7.4再編済）
- ・クレジットカードタッチ決済の導入（R7.3末導入済）
- ・補助金を活用して運行していることを車内放送でご理解いただくことを通しての利用促進啓発（R7.10～R8.9）

生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

下記の内容は、実現可能性を含め、今後検討を行うものである。

(1) 事業者名：北鉄能登バス株式会社

系統名：能登方面特急バス（珠洲接続）

運行区間：のと里山空港～すずなり館前

系統名：能登方面特急バス（宇出津接続）

運行区間：のと里山空港～能登町役場前～内浦総合支所前

①取組内容

- ・能登方面特急バス（輪島、珠洲、宇出津）の重複区間（金沢～のと里山空港）を整理・統合し、のと里山空港を拠点とした、ハブ&スポーク型の路線ネットワークに再編することにより、金沢～奥能登地域の便数を震災前と同程度以上に確保した持続可能性と利便性の高い特急バスネットワークに再構築する。
- ・乗降データから、奥能登各地域から、沿線の金沢医科大学病院および石川県立中央病院へのアクセスを考慮したダイヤを設定し、利便性向上を図る。
- ・クレジットカードタッチ決済の導入。
- ・補助金を活用して運行していることを車内放送でご理解いただくことを通しての利用促進啓発。

②実施主体：北鉄金沢バス株式会社北陸鉄道株式会社、北鉄能登バス株式会社

③効果目標

令和14年度の特急バスの収支率72%（震災前令和5年度の維持）を目指す

④スケジュール

- ・ハブ&スポーク型の路線ネットワークの再編（R7.4再編済）
- ・クレジットカードタッチ決済の導入（R7.3末導入済）
- ・補助金を活用して運行していることを車内放送でご理解いただくことを通しての利用促進啓発（R7.10～R8.9）